

# ASAまたはFTDの予期しないリロードのトラブルシューティング

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[すべてのプラットフォームと論理デバイスで確認すべき一般的な事項](#)

[デバイス（論理またはシャーシ）がリブートまたはクラッシュしたことを確認します。](#)

[ASA SoftwareLina（FTD上）クラッシュの場合のCrashinfoの確認](#)

[ASAプラットフォームで確認すべき事項](#)

[ASAイメージを実行するすべてのASAプラットフォーム](#)

[FTDイメージの実行をサポートするASAプラットフォーム](#)

[firepowerプラットフォームで確認すべき事項](#)

[FP9300/FP4100 FXOS](#)

[FTDを実行するFP9300/FP4100](#)

[ASAを実行するFP9300/FP4100](#)

[Fp2100 FXOS/ASA/FTDの場合](#)

[FP1000 FXOS/ASA/FTDの場合](#)

[コアファイルのダウンロード](#)

[その他の確認事項\(Firepower4100および9300プラットフォームに固有\)](#)

[モジュール内のコアファイルの表示](#)

[システムクラッシュに関連する既知の不具合](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、明確な理由なくFirepower脅威対策(FTD)または適応型セキュリティアプライアンス(ASA)デバイスがリロードするシナリオをトラブルシューティングする方法について説明します。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- firepowerおよびASAハードウェアプラットフォームの基本を理解する
- firepowerプラットフォーム上の論理デバイスの理解

## 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- ASA 5500-XとASAソフトウェアバージョン9. x
- ASA 5500-X ( FTDソフトウェアバージョン6.2.3以降 )
- ASAソフトウェアバージョン9. xが稼働するFirepower1000、1100、2100、4100、および9300シリーズ
- FTDソフトウェアバージョン6.2.3以降が稼働するFirepower1000、1100、2100、4100、および9300シリーズ

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 背景説明

このドキュメントでは、デバイスはASAまたはFirepower Next-Generation Firewalls(NGFW) ( Cisco Secure Firewallsのブランドに変更され、ASAまたはFTDイメージを論理デバイスとして実行する ) を指します。

Cisco Secure Firewallには、さまざまなハードウェアとソフトウェアのバージョンが含まれています。ASAファミリには5500-XシリーズのFirepowerがあり、ファイアウォールファミリにはFPR 1000、2100、4100、および9300シリーズのデバイスがあります。このドキュメントでは、デバイスまたはソフトウェアが前述のすべてのプラットフォームでクラッシュしたレベルを特定するための開始方法と、クラッシュが実際に発生したものかどうかを説明します。また、クラッシュの根本原因を特定するために、収集するすべてのアーティファクト、アーティファクトの場所、およびアーティファクトの使用方法も示します。

## すべてのプラットフォームと論理デバイスで確認すべき一般的な事項

デバイス ( 論理またはシャーシ ) がリブートまたはクラッシュしたことを確認します。


ASAの場合、デバイスの稼働時間を確認するには、コンフィギュレーションモードでコマンドを使用します。 # show version | in Up

firepowerハードウェアでは、次のコマンドを使用して、デバイスの稼働時間 ( FXOSレベル ) とシャーシの稼働時間 ( FXOSレベル ) を確認します。

```
FP4100-3# connect fxos
FP4100-3(fxos)# show system uptime
```

System start time: Thu Oct 31 22:50:09 2019  
System uptime: 391 days, 19 hours, 30 minutes, 45 seconds  
Kernel uptime: 391 days, 19 hours, 34 minutes, 34 seconds  
Active supervisor uptime: 391 days, 19 hours, 30 minutes, 45 seconds

---

 注：問題が発生した直後にデバイスが起動していることが確認された場合は、デバイスがリブートしたことを示しています。

---

デバイスの突然のリブートにつながる電源関連の問題がないかどうかを確認します。

アップタイムがネットワークのダウンタイムのタイムスタンプ（またはフェールオーバーやクラスタから出るユニット）に関連しない場合は、問題がデバイスのリロードによって発生しておらず、診断は完全に別の方向に進む必要があることを意味します。

## ASA SoftwareLina（FTD上）クラッシュの場合のCrashinfoの確認


システムクラッシュとは、システムが回復不可能なエラーを検出し、自動的に再起動した状況を指します。ファイアウォールがクラッシュすると、`crashinfo` 出力を提供してください。このファイルは、クラッシュの根本原因分析の決定に役立つ診断情報とログを提供します。ASAの場合、`crashinfo` ファイルはプレーンテキストで、Flash: ソフトウェアのバージョンや収集されたデータなど、その他の情報の長いリストを含むメモリレジスタの内容が含まれます。

次を入力します。`show crashinfo` コマンドをASA CLIの特権EXECモードで発行します。出力は、テキストエディタで確認することも、ASAコンソール自体で確認することもできます。

```
show flash | in crash
```

この出力をCisco Technical Assistance Center(TAC)のサービスリクエストで共有すると、社内ツールでデコードできます。この出力は、プロセスとスレッドに関する有益な情報を提供します。これにより、開発者はクラッシュを確認し、デバイス内の他のイベントと関連付けることができます。

---

 注：通常は、`show tech-support ASA`またはLinaからの出力（FTD上）`show crashinfo` この出力に存在するのが理想的です。ただし、多くの場合、出力はCLIを直接実行する場合と異なるか、不完全です。`show crashinfo` コマンドを使用して、アップグレードを実行します。したがって、常に `show crashinfo` コマンドをASAまたはLina CLIで直接実行します。

---

確認すべき一般的な詳細情報に加えて、発生する可能性のあるさまざまなレベルのクラッシュに応じて、収集すべき情報やアーチファクトが増えています。ASAプラットフォームでは、単一レベルのクラッシュのみが発生する可能性があります。ただし、Firepowerプラットフォームでは、論理デバイス（FTDまたはASAソフトウェア）レベルのクラッシュまたはシャーシレベル

(FXOS)のクラッシュが発生する可能性があります。

デバイスがクラッシュしたことが稼働時間によって確認された後、`coredump` ファイルが生成されます。このファイルは、Cisco TACによる詳細なレビューに必要です。「`coredump` ファイルのタイプは、ソフトウェアのどのコンポーネントがクラッシュしたかによって異なります。「`coredump` また、クラッシュしたコンポーネントに基づいて、ファイルはディスクのさまざまなディレクトリ/部分に保存されます。

## ASAプラットフォームで確認すべき事項

ASAプラットフォームには、ASAまたはFTDのいずれかにできる1つのコンポーネントしかありません。

### ASAイメージを実行するすべてのASAプラットフォーム

「`corefiles` クラッシュに関連する情報は、内部フラッシュドライブの`disk0`の下に保存されます。この設定を確認するには、`corefiles`を入力し、`dir disk0:/coredumpfsys` コマンドにより、WLC CLIで明確に示されます。

```
<#root>
```

```
ciscoasa#
```

```
dir disk0:/coredumpfsys
```

```
Directory of disk0:/coredumpfsys/
```

```
1071057 drwx 4096 23:14:58 Aug 30 2021 sysdebug  
12 -rw- 87580218 04:49:23 Jun 04 2021
```

```
core_lina.1227726922.258.11.gz
```

```
11 drwx 16384 23:13:37 Aug 30 2021 lost+found
```

```
1 file(s) total size: 87580218 bytes  
16106127360 bytes total (15749222400 bytes free/97% free)
```

次を入力します。`show coredump filesystem` コマンドを発行して、`coredump filesystem`と入力します。これにより、ディスク領域も表示されます。この場合は、次のものをアーカイブすることをお勧めします。`coredump` ファイルを保存する必要があります。ファイルが保存されている場合は、`coredump` 以前の設定を削除できる `coredump(s)` 現在のコアに適合するように設定します。

```
<#root>
```

```
ciscoasa# show coredump filesystem
```

```
Coredump Filesystem Size is 100 MB
```

Filesystem type is FAT for disk0

Filesystem	1k-blocks	Used	Available	Use%	Mounted on
/dev/loop0	102182	75240	26942	74%	/mnt/disk0/coredumpfsys

Directory of disk0:/coredumpfsys/

246 -rwx 20205386 19:16:44 Nov 26 2021

core\_lina.1227726922.258.11.gz

247 -rwx 36707919 19:21:56 Nov 26 2021

core\_lina.1227727222.258.6.gz

248 -rwx 20130838 19:26:36 Nov 26 2021

core\_lina.1227727518.258.11.gz

IPアドレスが表示されない場合は、`coredump` ファイルをdisk0に保存する場合は、`coredump` は有効になっていません。これは、このオカレンスのレビューを完了できないことを意味します。EMMを有効にするには、`coredump` 将来の発生に対しては、次のコマンドを入力します。

```
ciscoasa(config)#coredump enable
```

WARNING: Enabling coredump on an ASA5505 platform will delay the reload of the system in the event of software forced reload. The exact time depends on the size of the coredump generated.

```
Proceed with coredump filesystem allocation of 60 MB  
on 'disk0:' (Note this may take a while) ? [confirm]
```

```
Making coredump file system image!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!
```

```
Coredump file system image created & mounted successfully
```

```
/dev/loop0 on /mnt/disk0/coredumpfsys type vfat  
(rw, fmask=0022, dmask=0022, codepage=cp437, iocharset=iso8859-1)
```

## FTDイメージの実行をサポートするASAプラットフォーム

ASAプラットフォーム5506-X、ASA 5508-X、ASA 5512-X、ASA 5515-X、ASA 5516-X、ASA 5525-X、ASA 5545-X、およびASA 5555-Xは、FTDイメージの実行をサポートし、次世代ファイアウォールとして機能します。

FTDイメージを実行する、サポートされているすべてのASAプラットフォームでは、`corefiles` 下にあり `/var/data/cores` または `/ngfw/var/data/cores` エキスパートモードを使用します。また、これらのデバイスは、`disk0:/coredumpfsys` Linaフラッシュのディレクトリ。

<#root>

```
root@firepower:/var/data/cores#  
ls -l  
  
total 59660  
-rw-r--r-- 1 root root 4815651 Mar 14 17:07  
core.SFDataCorrelato.2035.1552608478.gz  
  
-rw-r--r-- 1 root root 56198339 Mar 14 16:47  
core.lina.2113.1552607243.gz
```

```
root@firepower:/var/data/cores#  
  
firepower# dir disk0:/coredumpfsys  
Directory of disk0:/coredumpfsys/  
  
2498562 -rw- 56198339 23:47:26 Mar 14 2019  
core.lina.2113.1552607243.gz  
  
2498563 -rw- 4815651 00:07:58 Mar 15 2019  
core.SFDataCorrelato.2035.1552608478.gz
```

```
2 file(s) total size: 61013990 bytes  
42949672960 bytes total (39523602432 bytes free/92% free)
```

## firepowerプラットフォームで確認すべき事項

firepowerプラットフォームには、2つのソフトウェアコンポーネントが付属しています。1つ目はFXOS ( シャーシのオペレーティングシステム ) で、2つ目はアプリケーションインスタンス ( 論理デバイスとも呼ばれる ) で、ASAまたはFTDのいずれかです。したがって、どの部分がクラッシュしたかを特定して、どの場所にファイルをダウンロードするかを決定することが重要です。

corefiles

アプリケーションインスタンスがFirepower1000/2000/4100および9300でクラッシュした場合、クラッシュ情報および `corefiles` デフォルトでは常に生成されます。ただし、場合によってはコアダンプを無効にできます。

4100/9300でコアダンプが有効になっているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。

```
connect module 1 console  
Firepower-module1>show platform coredumps
```

firepowerモジュールのコアダンプを有効または無効にします。

システムクラッシュが発生した場合のトラブルシューティングに役立てるため、または必要に応じてCisco TACに送信するために、Firepowerモジュールでコアダンプを有効にします。

```
Firepower# connect module 1 console
show coredump detail
```

コマンド出力には、現在のコアダンプのステータス情報と、コアダンプ圧縮が有効かどうかが表示されます。

```
<#root>
```

```
Firepower-module1>
```

```
show coredump detail
```

```
Configured status: ENABLED.
ASA Coredump: ENABLED.
Bootup status: ENABLED.
Compress during crash: DISABLED.
```

`config coredump` コマンドを発行して、コアダンプを有効または無効にし、クラッシュ時のコアダンプ圧縮を有効または無効にします。

- 次を入力します。 `config coredump enable` コマンドを発行して、クラッシュ中のコアダンプの作成を有効にします。
- 次を入力します。 `config coredump disable` コマンドを発行して、クラッシュ時のコアダンプ作成を無効にします。
- 次を入力します。 `config coredump compress enable` コマンドを発行して、コアダンプの圧縮を有効にします。
- 次を入力します。 `config coredump compress disable` コマンドを発行して、コアダンプ圧縮を無効にします。

次の例は、コアダンプを有効にする方法を示しています。

```
<#root>
```

```
Firepower-module1>
```

```
config coredump enable
```

```
Coredump enabled successfully.
```

```
ASA coredump enabled, do 'config coredump disableAsa' to disable
```


```
Firepower-module1>config coredump compress enable
```

```
WARNING: Enabling compression delays system reboot for several minutes after a system failure. Are you
```

```
y
```

Firepower-module1>

---

 注：コアダンプファイルはディスク容量を消費するため、容量が少なく圧縮が有効になっていない場合、コアダンプが有効になっていてもコアダンプファイルは保存されません。

---

クラッシュファイルにすべてのデータが含まれているとは限らないため、完全な分析を行うには、クラッシュファイルとコアファイルの両方をアップロードする必要があります。

## FP9300/FP4100 FXOS

FP9300/FP4100では、FXOS `corefiles` は、`local-mgmt cores` ディレクトリ。

```
firepower-4110# connect local-mgmt
firepower-4110(local-mgmt)# dir cores

1 9337521 Apr 30 11:28:15 2016 1462040896_0x101_snm_log.5289.tar.gz
1 1067736 Oct 09 10:38:49 2017 1507570679_firepower-4110_BC01_MEZZ0101_mcp_log.122.tar.gz
1 798663 Oct 10 18:05:54 2017 1507683913_firepower-4110_BC01_MEZZ0101_mcp_log.122.tar.gz
1 348160 Feb 11 23:53:25 2019 core.21845
```

```
Usage for workspace://
3999125504 bytes total
64200704 bytes used
3730071552 bytes free
firepower-4110(local-mgmt)#
```

FXOSからローカルコンピュータにコアファイルをコピーするには、次のコマンドを入力します。

```
firepower-4110(local-mgmt)# copy workspace:/cores:<file>.tar.gz scp://username@x.x.x.x
```

## FTDを実行するFP9300/FP4100

FTDを実行するFP9300/FP4100、`corefiles` 下にありますが `/var/data/cores` または `/ngfw/var/data/cores` エキスパートモードを使用します。また、これらのデバイスは、`disk0:/coredumpfsys` Linaフラッシュのディレクトリ。

```
root@firepower:/var/data/cores# ls -l
total 59660
-rw-r--r-- 1 root root 4815651 Mar 14 17:07 core.SFDataCorrelato.2035.1552608478.gz
-rw-r--r-- 1 root root 56198339 Mar 14 16:47 core.lina.2113.1552607243.gz
root@firepower:/var/data/cores#
```



```
firepower# dir disk0:/coredumpfsys
Directory of disk0:/coredumpfsys/
```

```
2498562 -rw- 56198339 23:47:26 Mar 14 2019 core.lina.2113.1552607243.gz
2498563 -rw- 4815651 00:07:58 Mar 15 2019 core.SFDataCorrelato.2035.1552608478.gz
```

```
2 file(s) total size: 61013990 bytes
42949672960 bytes total (39523602432 bytes free/92% free)
```

## ASAを実行するFP9300/FP4100

ASAを実行するFP9300/FP4100、`corefiles` は、`disk0:/coredumpfsys` ディレクトリ。

```
<#root>
```

```
asa#
```

```
dir disk0:/coredumpfsys
```

```
Directory of disk0:/coredumpfsys/
```

```
11 drwx 16384 17:34:50 Sep 10 2018 lost+found
12 -rw- 317600388 16:43:40 Mar 14 2019
```


```
core.lina.6320.1552607012.gz
```

```
1 file(s) total size: 317600388 bytes
21476089856 bytes total (21255872512 bytes free/98% free)
```

## Fp2100 FXOS/ASA/FTDの場合

Fp2100 FXOS/ASA/FTDでは、`corefiles` は、`local-mgmt cores` ASAまたはFTDのどちらを使用しているかにかかわらずディレクトリに保存されます。FTDでは、これらも次の場所にミラーリングされます `/ngfw/var/data/cores` (または `/var/data/cores`)と `/ngfw/var/common/` エキスパートモードを使用します。ただし、FP2100プラットフォームには`disk0:/coredumpfsys` ディレクトリ。

---

 注: Cisco Bug ID [CSCvh01912](#)は、FP2100をFP9300/4100プラットフォームと一致させるために提出されたものです。これが解決されるまで、上記の場所を使用して、`corefiles`を参照。

---

FTDがFirepower2100、1000、ASAアプライアンス、およびISA 3000アプライアンスにあるときのFirepowerコアファイルの場所：

これらすべてのプラットフォームで、すべてのFirepowerプロセスに関連するコアファイルを見つけるには、次の手順を使用します。

通常の `/ngfw/var/common/` : を入力します。

1. SSHまたはコンソールを介してアプライアンスのCLIに接続します。

2. エキスパートモードとして次のように入力します。

```
> expert
admin@firepower:~$
```

3. rootユーザーになります。

```
<#root>
```

```
admin@firepower:~$
```

```
sudo su
```

```
Password:
```

```
root@firepower:/home/admin#
```

4. `/ngfw/var/common/` コアファイルが格納されているフォルダ。

```
root@firepower:/home/admin# cd /ngfw/var/common/
```

5. ファイルのフォルダを確認します。

```
root@firepower:/ngfw/var/common# ls -l | grep -i core
total 21616
-rw-r--r-- 1 root root 22130788 Nov  6  2020 process.core.tar.gz
```

FP2100のFTD : 下 `/ngfw/var/data/cores` : を入力します。

```
> expert
admin@firepower:~$ sudo su
[cut]
root@firepower:/home/admin# ls -l /ngfw/var/data/cores
total 133740
-rw-r--r-- 1 root root 4761622 Jun  4 05:13 core.SFDataCorrelato.28634.1622783636.gz
-rw-r--r-- 1 root root 132014190 Jun  4 05:17 core.lina.11.1378.1622783800.gz
drwx----- 2 root root 16384 Nov  5 2019 lost+found
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Nov  5 2019 sysdebug
```

```
> connect fxos
```

```
[cut]
firepower# connect local-mgmt
firepower(local-mgmt)# dir cores

1 4761622 Jun 04 05:13:56 2021 core.SFDataCorrelato.28634.1622783636.gz
1 132014190 Jun 04 05:17:25 2021 core.lina.11.1378.1622783800.gz
2 16384 Nov 05 22:35:15 2019 lost+found/
3 4096 Nov 05 22:36:05 2019 sysdebug/


Usage for workspace://
85963259904 bytes total
15324155904 bytes used
70639104000 bytes free
firepower(local-mgmt)#
```

## FP2100のASA:

```
firepower-2110(local-mgmt)# dir cores

1 167408075 Jul 04 00:43:25 2018 core.lina.6.2025.1530657764.gz
2 16384 Mar 28 16:17:56 2018 lost+found/
3 4096 Mar 28 16:18:43 2018 sysdebug/
```

---

 注：FXOSは `corefiles` connectから同じcoreディレクトリに保存される `local-mgmt` を参照。

---

## FP1000 FXOS/ASA/FTDの場合

FP1000 FXOS/ASA/FTDでは、このプロセスはFP2100と同様です。また、`disk0:/coredumpfsys` ディレクトリはLina側で使用できます。

## FP1000のFTD:

```
> system support diagnostic-cli
Attaching to Diagnostic CLI ... Press 'Ctrl+a then d' to detach.
Type help or '?' for a list of available commands.

FP1010> ena
Password:
FP1010# dir disk0:/coredumpfsys
Directory of disk0:/coredumpfsys/

13 -rw- 86493184 19:59:39 Jun 03 2021 core.lina.18707.1622750370.gz
1071057 drwx 4096 23:14:58 Aug 30 2019 sysdebug
14 -rw- 4770749 20:19:24 Jun 03 2021 core.SFDataCorrelato.7098.1622751564.gz
12 -rw- 197689 23:01:08 May 19 2021 core.top.6163.1621465268.gz
16 -rw- 4752067 20:28:03 Jun 03 2021 core.SFDataCorrelato.28195.1622752083.gz
11 drwx 16384 23:13:37 Aug 30 2019 lost+found
15 -rw- 5048839 20:20:32 Jun 03 2021 core.SFDataCorrelato.18952.1622751632.gz

5 file(s) total size: 101262528 bytes
```

123418959872 bytes total (110302621696 bytes free/89% free)

> connect fxos  
[cut]

FP1010# connect local-mgmt  
FP1010(local-mgmt)# dir cores

```
1 5048839 Jun 03 20:20:32 2021 core.SFDataCorrelato.18952.1622751632.gz
1 4752067 Jun 03 20:28:03 2021 core.SFDataCorrelato.28195.1622752083.gz
1 4770749 Jun 03 20:19:24 2021 core.SFDataCorrelato.7098.1622751564.gz
1 86493184 Jun 03 19:59:39 2021 core.lina.18707.1622750370.gz
1 197689 May 19 23:01:08 2021 core.top.6163.1621465268.gz
2 16384 Aug 30 23:13:37 2019 lost+found/
3 4096 Aug 30 23:14:58 2019 sysdebug/
```

Usage for workspace://  
159926181888 bytes total  
17475063808 bytes used  
142451118080 bytes free

```
> expert
admin@FP1010:~$ sudo su
Password:
root@FP1010:/home/admin# ls -l /var/data/cores
total 99048
-rw-r--r-- 1 root root 5048839 Jun 3 20:20 core.SFDataCorrelato.18952.1622751632.gz
-rw-r--r-- 1 root root 4752067 Jun 3 20:28 core.SFDataCorrelato.28195.1622752083.gz
-rw-r--r-- 1 root root 4770749 Jun 3 20:19 core.SFDataCorrelato.7098.1622751564.gz
-rw-r--r-- 1 root root 86493184 Jun 3 19:59 core.lina.18707.1622750370.gz
-rw-r--r-- 1 root root 197689 May 19 23:01 core.top.6163.1621465268.gz
drwx----- 2 root root 16384 Aug 30 2019 lost+found
drwxr-xr-x 3 root root 4096 Aug 30 2019 sysdebug
```

FP1000のASA:

<#root>

ciscoasa# dir disk0:/coredumpfsys  
Directory of disk0:/coredumpfsys/

```
1071057 drwx 4096 23:14:58 Aug 30 2019 sysdebug
12 -rw- 87580218 04:49:23 Jun 04 2021
```

core.lina.27515.1622782155.gz

```
11 drwx 16384 23:13:37 Aug 30 2019 lost+found
```

1 file(s) total size: 87580218 bytes  
16106127360 bytes total (15749222400 bytes free/97% free)

ciscoasa#

connect fxos

```
[cut]
FP1010#

connect local-mgmt

FP1010(local-mgmt)#


dir cores

1 87580218 Jun 04 04:49:23 2021
core.lina.27515.1622782155.gz

2 16384 Aug 30 23:13:37 2019 lost+found/
3 4096 Aug 30 23:14:58 2019 sysdebug/

Usage for workspace://
159926181888 bytes total
5209071616 bytes used
154717110272 bytes free
```

---

 注:FXOS corefiles 接続から同じコアディレクトリに保存される local-mgmt を参照。

---

## コアファイルのダウンロード

この例では、`copy` コマンドを `connect local-mgmt Lina/ASA CLI` を使用します。FTDエキスパートモードの場合、`scp` コマンドを使用して、アップグレードを実行します。

## その他の確認事項(Firepower4100および9300プラットフォームに固有)

次の出力を確認します。 `show pmon state` コマンドを `local-mgmt FXOS` で実行されます。次の例は、どのプロセスもクラッシュしなかった場合の望ましい出力を示しています。この出力には、デバイスレベルのクラッシュだけでなく、インターフェイスモジュールやDMEのクラッシュなども含まれています。

```
<#root>
```

```
fp1120-v-1(local-mgmt)#
```

```
show pmon state
```

SERVICE NAME	STATE	RETRY(MAX)	EXITCODE	SIGNAL	CORE
-----	----	-----	-----	-----	----
svc_sam_dme	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_dcsoAG	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_portAG	running	0(4)	0	0	no

svc_sam_statsAG	running	0(4)	0	0	no
httpd.sh	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_sessionmgrAG	running	0(4)	0	0	no
sam_core_mon	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_svcmonAG	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_serviceOrchAG	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_appAG	running	0(4)	0	0	no
svc_sam_envAG	running	0(4)	0	0	no

関連するFTD/ASAディレクトリにコアファイルが見つからない場合、コアファイルは4100/9300のbootCLIに存在する可能性があります。

## モジュール内のコアファイルの表示

モジュールコンソールに接続するには、次のコマンドを入力します。

```
<#root>
```

```
/ssa # connect module 1 console
Telnet escape character is '~'.
Trying 127.5.1.1...
Connected to 127.5.1.1.
Escape character is '~'.
CISCO Serial Over LAN:
Close Network Connection to Exit
```

```
Firepower-module1>
```

```
support filelist
```

```
=====
Directory: /
Downloads_Directory
CSP_Downloaded_Files
Archive_Files
Crashinfo_and_Core_Files
Boot_Files
ApplicationLogs
Transient_Core_Files
Type a sub-dir name to list its contents, or [x]

to Exit: Transient_Core_Files
```

```
-----files-----
[No files]
([b] to go back)
Type a sub-dir name to list its contents: b
=====
Directory: /
Downloads_Directory
CSP_Downloaded_Files
Archive_Files
Crashinfo_and_Core_Files
Boot_Files
ApplicationLogs
Transient_Core_Files
```

Type a sub-dir name to list its contents, or [x] to Exit:

Crashinfo\_and\_Core\_Files

-----sub-dirs-----

lost+found

-----files-----

```
2017-03-20 20:45:06 | 40639151 | core.lina.48857.1490042695.gz
2017-03-20 20:48:47 | 40638054 | core.lina.18113.1490042915.gz
2017-03-20 20:52:28 | 40638186 | core.lina.18112.1490043137.gz
2017-03-20 20:56:10 | 40638466 | core.lina.18123.1490043359.gz
2017-03-20 20:59:53 | 40638345 | core.lina.18262.1490043582.gz
2017-03-20 21:03:35 | 40638120 | core.lina.18476.1490043803.gz
2017-03-20 21:07:22 | 40638335 | core.lina.18529.1490044031.gz ([b] to go back)
```

Type a sub-dir name to list its contents: b =====

Directory: /

Downloads\_Directory

CSP\_Downloaded\_Files

Archive\_Files

Crashinfo\_and\_Core\_Files

Boot\_Files

ApplicationLogs

Transient\_Core\_Files Type a sub-dir name to list its contents, or [x] to Exit: x

Firepower-module1>

bootCLIにコアファイルがない場合は、FXOSレベルでログを確認できます。

connect fxos

```
1-(fxos)# show logging onboard obfl-logs
2-(fxos)# show logging onboard stack-trace
3-(fxos)# show logging onboard kernel-trace
4-(fxos)# show logging onboard exception-log
5-(fxos)# show logging onboard internal kernel
6-(fxos)# show logging onboard internal platform
7-(fxos)#show logging onboard internal kernel | no-more
8-(fxos)#show logging onboard internal kernel-big | no-more
9-(fxos)#show logging onboard internal platform | no-more
10-(fxos)#show logging onboard internal reset-reason | no-more
```

If logging at fxos level is enabled, you can check the logs on fxos.

It contains the syslog buffer and OBFL logs stored in NVRAM

Connect fxos

```
show logging log -----This is a non-persistent syslog buffer
show logging onboard obfl-logs -----Non-volatile storage for history of boot up and reset occurrences.
show logging nvram -----Non-volatile storage for critical logs.Important for historical is
```

On FXOS CLI, at the top-level scope use following command.

```
show fault detail or show fault
```

If you want to view faults for a specific object, scope to that object and then enter the show fault command.

You can check for audit-logs which is a persistent store of user operations.

This moreover stores the sequence of user operations done.

```
firepower# scope security
firepower# /security # show audit-logs
```

デバイスがサイレントモードでクラッシュし、クラッシュファイルやコアファイルが生成されないことがあります。この場合、ログを確認できます。

```
At FTD instance or device level:
#####
```

```
# Navigate to the /ngfw/var/log or /var/log and open the messages log file. Check all the logs generated.
You can search for following messages (in /ngfw/var/log or /var/log) to confirm if device rebooted with
```

```
firepower shutdown[2313]: shutting down for system reboot
Stopping Cisco Firepower 2130 Threat Defense
pm:process [INFO] Begin Process Shutdown
```

```
# Check for syslog messages (specific to device up and down) generated when the device rebooted.
You can check for syslog messages generated 15-30 min before and after the device reboot to know if
```

## システムクラッシュに関連する既知の不具合

システムクラッシュの詳細については、次のページを参照してください。

- Cisco Bug ID [CSCvu84127](#) : コアまたはクラッシュファイルを生成しないFTDのサイレントクラッシュ
- Cisco Bug ID [CSCwa35845](#) : コアファイルを生成しているASA 5516がリロードされた
- Cisco Bug ID [CSCvw99444](#) - FTDのクラッシュ `crashinfo/corefile`
- Cisco Bug ID [CSCvv86926](#):FTDのクラッシュによる生成 `crashfile`
- Cisco Bug ID [CSCvp16482](#) - ASAがクラッシュしてコアファイルが生成される
- Cisco Bug ID [CSCvm53545](#):ASAがトレースバックとリロードを行っても、 `crashinfo` ファイル



## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。